

平成19年第1回蔵王町議会定例会が開会され、平成19年度蔵王町一般会計当初予算ほか各議案のご審議をお願いするにあたり、私の町政運営に対する基本的な考え方をご説明申し上げ、皆様方のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

私は町長に就任させていただきましてから、早や二年半を経過し、3度目の当初予算を編成し審議を賜る定例会を迎えることとなりました。

これまで、町民の皆様をはじめ、議会の皆様のご理解とご協力、そして温かいご支援を賜り、誠心誠意、町政の執行をさせていただき、昨年と同様あっという間に過ぎてしまった一年でありました。

町政を預かる者として、改めてその責任の重大さを噛みしめているところであります。

さて、国の景気状況はいざなぎ景気をしのぎ、戦後最長とされ、回復基調にあると新聞、マスコミ等で報道されておりますが、地方自治体、とりわけ「本町」においては米価や観光客の低迷、商店などにおける個人消費の伸び悩みなどに加え、個人所得も依然として厳しいものが続いております。

本年度より、制度改正により所得税から町民税へと税源移譲されましたが自然増収は見込めず、昨年度までの地方譲与税相当額を確保出来るか危惧されるところであります。

行財政を取り巻く環境は以前にも増して厳しく、国からの負担金・補助金の削減・廃止がされる中で、町の自立のために自らの道を切り開き、出来る限り歳出を削減し、歳入を確保しなければならぬ状況にあります。

また、町の総人口は、昨年1月末と比較しても70名の減少傾向にあり、地域全体の活性化に大きな影響を与えかねない事態になっております。

さらに、出生率の低下により急速に進展する少子高齢化に伴い、こども達の安全の確保と介護予防そして疾病の予防に努めていかなければなりません。

毎年申し上げておりますが、このような状況において、課題は山積していますが、私は行政の使命は、この町が「誰もが住んで良かった」と言えるような、安全と安心そして心豊かに暮らせる、健全で活力ある地域社会を町民の皆様と共に歩み、共に汗を流し、「町民協働のまちづくりをめざして」いくことにあると思っております。

そして、英断をもって町政を進めて行けば必ずや未来が開けてくるものと信じております。

本年度において、平成20年度からの第4次長期総合計画を策定して、わが町は合併をしないで「単独のまちづくり」を決定し、推進するため昨年、行政改革推進室を設置して行政改革に取り組んでいるところでありますが、町税収入の落ち込み、国からの地方交付税や三位一体の改革により負担金・補助金の削減・廃止、また国民健康保険や老人保健、そして介護保険における社会保障費の増大により、これら特別会計への繰り出し金の増加が今後も予想され、町の財政運営はこれまで以上に非常に厳しく、現在の状況では依然として「危機的状況」にあります。

平成17年度から取り組んで来ました行政改革を引き続き実施するとともに、本年度におきましては、私や助役・教育長の給料を更に5%削減し、職員の管理職手当・住居手当や通勤手当、

各種委員会などの非常勤職員の報酬の減額、敬老祝い金の一部廃止などをするほか、各種使用料・利用料の改定をいたし、この状況を乗り切ろうとしているところであります。

また、減少する子どもの幼稚園教育の充実を図り、サービスの向上のため、平成20年度からの幼稚園統合を進めて参りたいと思っています。

私が町長就任以来申し上げて参りました、「開かれた町政を目指す行財政改革の推進」、「活力ある蔵王の産業作りと観光の充実」、「生活環境の充実」、「蔵王の自然と共生する教育の充実」、「子育て支援と高齢者が共存できる町づくり」を五本の柱として皆様と共に歩んで行こうと思っておりますので、どうか、町民の皆様並びに議員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、平成19年度の当初予算編成に当たりましては、多額の歳入不足が予想され、これまでにない厳しい財政運営を迫られる中で、限られた財源をより効果的に執行するため、その基本的な考え方をご説明申し上げます。

本町の財政状況は、ここ数年、地方交付税の減額は平成12年度の最高額に対して6億5千万円強の減額となり、加えて町税収入が落ち込み、加えて、国の「三位一体改革」による国庫補助金などの削減又は廃止により、行政需要に対する歳入が見込めず財政調整基金の取り崩しなどによって、これまで苦難な予算編成を行ってきたところであります。

平成19年度地方財政計画においては、前年度に比較し、普通地方交付税は4.4%の減、臨時財政対策債は9.5%の減となっております。

また、宮城県においても、三位一体改革の影響などで歳入が落ち込み、基金の取り崩しや財政健全化債の発行などによって補いながら予算編成され、財政健全化や経済活性化対策などに最大限に配慮されているところであります。

このような中で、本町財政を取り巻く情勢は国や県と同様でありますので、将来において過度の負担とならないよう、限られた財源の中で、増加する行政需要にどう応えていくべきか、かつてない非常に厳しい行政運営を迫られているところであります。

については、我が町の自立と町民の福祉向上のため、「独自のまちづくり」を推進していかなければなりませんので、行政のスリム化を目指し、大幅な行財政改革を推進しながら、予算編成にあたったところであります。

今回の改革にあたりましては、行財政改革計画にそって、昨年の老人憩いの家に続き、伝統産業会館（こけし館）の管理を指定管理者制度に移行や各種補助金の大幅な削減に取り組みました。

また、定員適正化計画により退職職員の不補充による職員の減は7名となり、現在可能な限りの見直しを進めて、所要の措置を講じたところであり、議員の皆様にご理解を賜りながら、この財政の難局に対処して参りたいと、不退転の決意をいたしているところであります。

今後につきましても、平成19年度で事務事業の見直しを検討して、なお一層の行財政改革に取り組み、健全財政の堅持に努めて参る所存であります。

一方、歳入予算をみますと、昨年度の評価替えにより本町町税収入の6割以上を占める固定

資産税の大幅な増収は見込めず、町税収入は極めて厳しい状況にあり「三位一体改革」の影響を受けて、国庫補助・負担金の一般財源化や臨時財政対策債の減額により、財政規模はますます抑制されております。

これらのことから、町税の公平な負担と滞納額の縮減を図るため、「徴収対策室」を新たに設け、国税退職者を「徴収指導員」として任命し、徴収力の増強を図って参ります。

また、起債借入額を最小限に抑え、現時点で見込み得る最大限の額を計上しておりますが、それでもなお不足する財源を確保するため、財政調整基金から9,000万円を取り崩すことといたしました。

以上のことから、歳入歳出ともに最大限の予算計上を行った結果、一般会計の総額は、前年度

対比で1.7%減の46億円となりました。

次に、歳出予算における重点事業について、ご説明申し上げます。

（総務関係）

始めに、総務関係においては、平成20年度から平成29年度までの10年に及ぶ第4次蔵王町長期総合計画の策定を前期5年・後期5年に分けて策定して参ります。

計画の基本的な考え方（基本計画）は「量から質への転換」・「ハードからソフト施策への転換」など8項目を基本として町民の皆様と一緒に考え策定して行こうと思っております。

また、本年度は宮城県議会議員選挙・参議院議員選挙及び町議会議員選挙が予定されていますが、町議会議員選挙においては、選挙管理委員会

と協議し、投票時刻の繰上げを検討して参ります。

（保健福祉関係）

次に、保健福祉関係では、引き続き高齢者いきがい活動支援通所事業、温泉利用デイサービスを拡大し、健康づくりと日常生活の支援指導を通して生活習慣病の予防に取り組んで参ります。

疾病の発生及び蔓延を予防し、医療費の縮減を図るため、予防接種事業や各種検診事業を進めます。

昨年、子育て支援センターを保健福祉課に設置し、子育てに関する情報の提供や、悩みの相談、或いは幼児教室の開催や児童館・保育所利用の案内など、子育て支援の窓口を一本化して総合的に推進して参りましたが、特に、昨年制度化された食育基本法に基づき、子どもの食事についての見直しを指導するとともに、児童虐待の防止に力を

注いでいきます。

同様に子育てを行う保護者の負担を軽減するため、新生児（乳幼児）に対して「おむつ券」の支給助成を行います。

また、新たに、障害者の「地域生活支援事業」を立ち上げ、障害者の日常生活をサポートして行くとともに、本年度より県の補助は廃止されましたが「こまくさ作業所」の運営も町単独で継続して参ります。

（農業関係）

次に、基幹産業である農業については、農業振興のために、園芸特産重点強化整備事業に取り組み、つるむらさき、なし、ブルーベリー等の産地育成のために、施設・機械の整備を進め、引き続き、その振興に努めます。

また、米作において一昨年大発生した

「カメムシ」は昨年の防除対策が功を奏したものだと思っていますので、本年も万全を尽くして行きたいと考えております。

円田2期地区県営ほ場整備事業については、計画面積の146haのうち71haが完成しており、平成13年度から6年を経過し約50%の進捗率となっております。この事業は担い手型ほ場整備として、低コスト化を目指して高生産性のある大区画での水稲栽培・転作栽培に大きな期待がありますので、平成22年度完了に向け事業を推進して行きます。

農道整備事業としての曲竹明神河原1号線は本年度に完成の運びになっております。

昨年4月、農林観光課内に「ブランド振興係」を設置し本町農業の柱とした青果物の品質向上・流通販売の促進並びに転作作物や重点

作物などの環境にやさしい農業の促進を図りながら、トレーサビリティの実施による安全・安心な青果物の高品質で計画的な生産販売を展開し、蔵王ブランドの確立と農家経営の安定を目指す事業を展開して参ります。

更に、農業と観光の連携により、グリーンツーリズムを中心とした農業と観光の更なる推進に取り組みながら、蔵王の自然や景観なども含めた全てを「蔵王ブランド」としての銘柄の確立に努めて参ります。

県営仙南 2 期地区広域農道整備事業につきましては、下別当から八室をつなぐ路線として平成 17 年度に農道整備事業として新規採択になり、これまで調査測量設計が行われて来ました。

当初は平成 22 年度までの 6 カ年計画でありましたが、厳しい財政状況から現段階で 23 年度

までの事業延伸がされております。本年度から工事着工の予定で埋蔵文化財調査箇所との関係で工事箇所は八室側からと下別当側からの2箇所となっております。この農道は農産物を含めた物流への経済効果及び松川橋の迂回ルートとしても防災機能に果たす役割は大きなものがあると思われまので、財政状況の許す限り計画に沿って事業を進めて参ります。

また、新規事業として農業の持続的発展と多面的機能の健全な発揮を図るため、効率的・安定的な農業構造の確立、いわゆる「品目横断的経営安定対策」と併せてその基盤となる「農地・水・環境の保全」と品質的向上を図る「資源の適切な保全管理」・「環境資質向上」・「生産資源向上」の事業を展開する地区に補助金を交付し、事業の推進を図って参ります。

(商工観光関係)

次に、商工観光関係については、緊急経済産業再生市町村連携事業補助金により「遠刈田温泉活性化事業」を県と連携して「公衆浴場」の新築、「足湯」の設置、「観光案内所並びに公衆トイレ」の工事などの整備を行いましたので、観光拠点の一つとして、遠刈田温泉市街地の活性化と観光客の増加を目指して参ります。

合わせて、仙台からの「高速バス」を遠刈田温泉まで延長していただきましたが、更に2往復ほどの増便をお願いし、通勤・通学者などが利用しやすくなることはもとより、更に観光客の誘致も図って参りたいと思います。

また、個人消費が不透明で伸び悩む中、厳しい経営状況に対処するため、引き続き、中小企業振興資金融資原資の預託を行い、中小企業者を

支援して参ります。

新規事業としましては、J Rグループが地方自治体などと連携して実施する大規模なキャンペーン「デスティネーション・キャンペーン」が平成20年10月から12月の3ヶ月間、初めて宮城県を対象に開催されることになっています。

このキャンペーンは全国的に宮城県や蔵王町をP Rするためには集客・経済効果は非常に大きなものがあり、隣県の山形市・天童市とも連携しながら観光客の誘致を行い、本町経済の活性化を図って参ります。

(建設関係)

次に、町道永野山の入平沢線の道路改良工事につきましては、平成17年度から21年度までの5年間の計画でありましたが、財政事情を考慮し工期を2年延長して改良工事240m、舗装工事

390mの完成を予定しております。

また、限られた予算の中ではありますが町道の維持管理には計画的に補修等を行い安全の確保に努めて行きたいと思えます。

新規事業としましては、宮城県が実施する一級河川・平家川の改修事業に併せて、町道城山線の歩道の設置を行うこととしております。

(教育関係)

次に、教育関係においては、近い将来に発生が予想される宮城県沖地震に備え、地震対策として、昨年度において耐震診断は全て完了しましたので、永野小学校校舎、宮中学校の屋体耐震補強設計、そして宮小学校の耐震補強工事に取り組みます。

また、児童生徒の自立を目指して、障害の種類や程度に応じた「特別支援教育」の充実という

観点から、特別支援学級を3学級、学習支援室を1室増設いたします。

5年計画の円田2期地区ほ場整備及び広域農道に関連する遺跡調査についても事業に合わせて進めて参ります。

また、「蔵王町ふるさと文化会館・ございんホール」が生涯学習の拠点となり、町民の交流と文化に親しみ学習のよろこびを得ることの出来る施設として多くの方に利用して頂けるよう、各種事業を展開して、一層の活用を図って参ります。

更に、プロ野球イースタン公式戦、楽天対ヤクルト戦を誘致して子ども達に夢を与えるとともに、町民の皆様にプロ野球の醍醐味を間近で見れる迫力を味わって貰いたいと思います。

以上、平成19年度を迎えるにあたりまして、

私は「蔵王の未来」に思いを馳せる大きな志を常に胸に抱き、あふれる情熱を「よりよき改革」の言葉に込めて、「がんばろう！あらたなZAOに向かって！」をスローガンに本町が更に躍進いたしますよう、皆さんと一緒に知恵を出し合い、汗を流し、英断をもって、町政運営に取り組んで参りたいと考えております。

どうか、町民の皆様並びに議員の皆様のより一層のご理解・ご協力そしてご支援を心からお願い申し上げます、平成19年度の施政方針といたします。